

◆通所介護ナイス・デイ◆訪問介護ナイス・ケア◆小規模多機能型居宅介護ナイス・ホーム◆住宅型有料老人ホーム愛宕の家◆有料職業紹介つしま紹介所◆学童・託児ナイス・キッズ◆喫茶てのひら



vol. 180 通信
H27年8月11日発行

発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113〒496-0036
代表TEL：(0567)26-3921
FAX：(0567)26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

《8月予定》

- 10日 外食DAY
- 20日 避難訓練
- 22日 愛宕の家家族懇談会
夏の宴
- 24日 誕生日会

中旬：利用者アンケート配布
下旬：利用者アンケート回収
※利用者アンケートは7月に予定していたものです。

《不定期行事》

天気や意欲等で状況判断し、
外出先一覧を参考に社会生活
に参加します。

《利用状況案内板（☆募集中 ☆満員）》

☆ナイス・ケア

☆ナイス・デイ（定員10名/日）

日	月	火	水	木	金	土
5	7	7	6	6	7	7

☆ナイス・ホーム（定員21名中登録者18名）

☆愛宕の家（定員17名中入居者16名）

☆つしま紹介所 ☆ナイス・キッズ

★打太鼓

～上記を参考にご利用下さい～

新人の挨拶／SOS

5月に入社した僕は以前、障がい者ケア施設で現場の手伝いをしながら管理者として働いていました。

そんな僕が介護職としての仕事に就こうと思ったのは、自分自身が知識だけでいっぱいになっていることに気が付き、「人を元気にできる仕事がしたい！」という初心を取り戻したいと思ったから。

入社前、株式会社サポート・ワン・サービスの介護を知り、面接等を経てもなお、その初心を実践しているのはここだと感じました。実際、業務に就いてみると現場の難しさ、人と関わる事の重大さが身にしみて分かります。

そして、僕に足りないことが沢山あるのだと気付かされました。自信をなくしかけた僕は、まず「話す」ことを大切にしてみようと思いました。

知識や技術ではなく、「話す」ことを意識し始めると、利用者さんからの声掛けに耳を傾けることや、些細な事でも自ら進んで誰かに話しかけることが必要だと思えます。何だか毎日が楽しくなり始めています。

「話す」機会が増え、一緒に働くスタッフとのコミュニケーションも良くなり情報の共有や介護技術、関わりをより深く考える機会にもなりました。

これからも「話すこと」を大切にしながら、利用者さんが快適に、そして元気に生活してもらえようサポートをさせてもらいたい。介護職として1日1日頑張りたいと思います。(K・T)



馴染みの関係とは／ナイス・ホーム

ナイス・ホームの“通い”は、“デイサービス”と同様、利用する曜日を決め、日中は施設で他の利用者さんと共に時間を過ごす。当然、利用者さんは曜日毎の顔馴染みな関係を築くようになる。

通院等でお休みになった利用者さんに気付くと「今日は〇〇さんお休みかね。」と聞かれる。

送迎時、緊急利用が無い限りはルートが同じ。「次は〇〇さん家だね」とスタッフ並みに覚えている。

デイサービスと違うのは津島市内の住民しかいないという点。短時間ドライブしながらに地域に根ざした懐かしの場所を通りかかると地元の方にしか分からない思い出話に花が咲く。

通い利用中、地域の好きなお店や食べたいもの話題になれば、『じゃあ今度の訪問で買い物に行こうか！』と直ぐにサービス内容に結びつける。それは利用者さんと地域との関わりを復活させることにも繋がる。

訪問時、「今度ホームで流しそうめんするけど来る？」と声を掛け、その場の返事を持ち帰り、通いのメンバーとして調整する。

小規模多機能は、日常の些細な会話や様子をサービス内容に直結させられるのが特徴だ。顔馴染みになり血の繋がりは無いけれど結びつきで縁が出来る。血縁ではなく結縁だ。お互いに気を配りながら適度な距離感で励ましあう。利用者さんやその家族とそんな関係を作りたい。(A・I)



今後は思索／ナイス・ケア

介護保険が始まる前からナイス・ケアを利用されているMさん。用意周到、独立心旺盛で心配性のMさんは将来を思索し『介護が必要な状態になった時、元気な頃の自分達の生活を理解した上でサポートしてくれる存在が必要なの。安心して老後を迎えたいから。』と希望されていました。

週に1度3時間の掃除で利用開始。夫に介護が必要となったときは「信頼できる介護のプロがいるから安心。」と気丈に対応される様子も見てきました。夫を看取った後も独居でMさんらしい生活を続けています。自身も要支援2の認定を受けてからは介護保険のサービス提供事業所としてナイス・ケアを選択。自費と組み合わせて臨機応変な利用をされています。

腰や膝の痛みがあるため椅子に座って家事、調子が良い時に意識的に身体を動かし筋力低下予防。常に自分と向き合い、今も尚、自分らしい生活スタイルを維持するための努力を惜しみません。

7月、介護保険証更新で要支援1が確定。嬉しい限りですが、ヘルパー利用は週3回→週2回へ変更となりました。今後、要支援の方は総合事業へ移行となります。そうすると、早20年となるお付き合いにも終止符が打たれてしまうのかもしれませんが。介護保険法の整備のあり方でMさんの今までの努力が生かされない時が来てしまうのでしょうか。それとも事業所の方針で継続した関わりが可能なのか。まだまだハッキリしない制度の行く末に、もどかしさと焦りを感じています。(K・N)

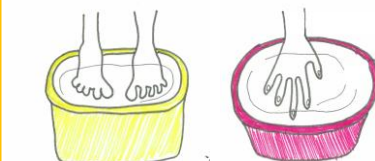
社内実践指導／SOS

『人員配置に余裕のある日は実技の指導者やってみない？』と統括責任者から声がかかった。以前から社内実技研修を行うときには講師？としての役割をさせてもらうことが多かったが、日常的な業務中での介助指導となるとちょっとドギマギした。実技に特化した外部研修に何回も参加する機会も与えられたこともあり、「やってみよう！」とその役割を受け入れることに……。その実践報告も兼ねてSOS通信のひと枠を担当することになりました。

《7月のテーマ 手浴・足浴》

梅雨時期を過ぎた。暑い日が始まりエアコンの活用が始まった。利用者さんの中には脳梗塞などの後遺症で身体の硬縮が残ってしまった方等がいる。ふと気付くと入浴しているのに握った手から悪臭が……。足はキンキンに冷えてすり足歩行……。

普段、私たち当たり前に毎日入浴し自分の満足するように全身きれいに洗っているし、エアコンの効いた部屋に居ても少なからず生活動作があるからキンキンに冷えてしまうことはない。入浴が出来る日も出来ない日も、身体の末端である手足を温め清潔に保つ。7月はその大切さや手順を改めて伝えました。(H・O)



今年も行ってきましたあ〜♪／ナイス・キッズ

毎年恒例になった「夏休みだ！美杉へGO!!」

キッズ達も随分と美杉での過ごし方にも慣れ、牛舎で牛と触れ合う子もいれば、くど(かまど)や風呂で火を熾す事に全力を注ぐ子もいる。この火熾し、美杉にお邪魔するようになり早5年、私は未だにうまく火が熾せない……。それでも毎回虜になる。キッズの中にボーイスカウトに参加しているメンバーが数人。悔しいかな彼らの方があつという間に火を熾す…。彼らを尊敬の眼差しで眺める41歳……。

思えば5年前、初めは川へ行っても浅瀬でチャプチャプと沢蟹を必死にとっていた彼らも、今では、川の深い所でハゼやカジカを素潜りで獲る。それは見事な潜りっぷりである。庭での夕食時、軒先に座り子ども達に目を向ける。体の大きさ、動きや考え方にもキッズ達の成長を感じた。現在、6年生が3人……。来年は中学生。部活が忙しく美杉合宿には参加できなくなるのかも……。と勝手に寂しく思う私。

キッズ達の毎年の合宿所。普段味わえない体験ができるし、3日間を共にすると一体感も出来て尚楽しい。美杉合宿にはやっぱり魅力があると思う。(R・W)



《編集後記》

8月に入りました。もうすぐお盆です。昔、祖父母から「お盆はご先祖様をお迎えする期間」と教えられ、「いつもはお墓にいるけど、お盆は家に帰ってくるのか」と幼いながらに思ったのを覚えています。今年の夏の宴はお盆過ぎた8月22日(土)に予定しています。愛宕の家やナイス・ホームで逝去された方が、お盆はご自宅へ帰られ、お墓に戻る前、SOSの夏の宴に顔を出してもらえると嬉しいなと思います。今年も趣向を凝らし盃蘭盆経を職員が主となって唱えることになりそうです。気持ちが届くと嬉しいな。(Y・O)

小学1〜中学2年生が4コマ漫画を描くはずが…大人の書いた番外編♪

カブトムシ???

